

ムツシューリュウマこと中村龍馬さん=近江八幡市上田町)=は20代で海外に雄飛。ロンダン、パリでヘアーデザイナー、アッショーンの修業を重ね、30代でヨーロッパの各種理美容大会でグランプリなどを受賞。

40代になると台湾、シンガポールに店を構え、「美容界の革命児」、「風雲兒」と呼ばれるほどの花形ヘアデザイナーになった。ところが脂が乗り切った50歳を機に引退し、事業家に転身。今は美容と健康に優れた化粧品や毛髪改善剤の研究開発、販売に走り回る。中村さんに男のロマン、理美容界、生き方などについて聞いた。

【斎藤和夫】

—美容界に入ったきっかけは?

大学を出たら弁護士になろうと思い、司法試験を受けたが落ちてしまつた。祖父の代から理髪店だったのでも免許を取り、小さな店を持つ。25歳の時、軽い気持ちでヨーロッパへ放浪の旅に出た。最初はロンドンで皿洗いなどをしながら美容学校に通い、スタイリストとしての基礎を身につけていた。

元「カリスマ的ヘアーデザイナー」ムツシューリュウマこと

中村龍馬さん=近江八幡市



かつて美容界の風雲児だった中村龍馬さん

「美容界の革命児」

時代を駆け抜けた半世紀

これから的人生は恩返し

提言

坂本龍馬と同じ誕生日。幼いころから祖父に「龍馬のようになれ」と言われ、最初は反発した。だつたので、免許を取り、海外で仕事をするようになつてから「名に恥じない仕事を」と思うようになつた。海外のコンテストは、技術が磨けるので、努めて出た。普通の人は前の大会で優勝したスタイルを真似ようとする

理美容師は人間の体で一番大切な頭をハサミを持って触らせてもらっている。命を預け

が、私はまったく違うスタイルに挑戦。アイデアで勝負したのが良かった。受賞前は「ジャボネ」と呼ばれていたのが受賞後はムツシューリュウマと尊称に。このころから強く龍馬を意識するようになった。

—30代後半から舞台はアジアに……。

—30代後半から舞台は仕事上の悩みがあつて

なかむら・りょうま 近江八幡市生まれ。73年、フェスティバル・ド・パリ・インターナショナル理美容世界大会で国際賞を受賞し、75年には同大会のグランプリなど受賞。ムツシューリュウマとして日本を代表するヘアーデザイナーとなる。76年、古里にムツッシューリュウマ・インターナショナル・カットスクールを開校、後進の指導に乗組みで乗組り出す。78年、カンボジアで3ヶ月間ボランティア活動。81年に台湾に海外1号店を開き、その後シンガポールなどにも出店した。50歳で事業家としてスタート。経験を生かし、髪に優しい化粧品や毛髪頭皮剤の研究開発などに努める。

私の半生は龍馬のようになつた。その子の目の輝きが氣持ちになり1号店を出した。一時は台湾だけでも6店構えた。東南アジア諸国にも出かけ、アジアの理美容界には貢献が

した。日本理美容界が封建的で嫌気がさしていることもある。翌日その子は亡くなり、母親から「頭をきれいにして台湾で仕事をしないか」ともつたのであの子は幸せでした」と礼を言われ

に決め、誕生日の前に引退宣言、パッと辞めさせてもらった。

—そして事業家に転身。

—交通遺見などへのボランティア活動も実践に若きころ交通事故を起きた反省で、講演や研修の収入はエイズや難民、交通遺見らに役立つよう寄金することにしている。現役時代からです。引退後も海外を含め多い月には6、7回、講演や研修を行っている。寄金はこれからもずっと続けたい。